

平成 27 年 9 月 定例会 議事録

- ・日 時 : 平成 27 年 9 月 3 日 (木)、20:00 ~ 20:50
- ・場 所 : 石川県 NPO 活動支援センター「あいむ」
- ・出席者 : 五十嵐、池田、大竹、黍野、木村、今度、蓮井、村中、山崎、吉田
(計 8 名)
- ・欠 席 : なし
- ・進行・記録 : 大竹

《議題》

1. 次期金沢市交通戦略パブリックコメントの結果について
2. 今後の「市民会議フォーラム」について
3. その他

《内容》

議題 1 について

・市民からの意見に対する結果が 7 月 31 日付けでホームページに公表された。全体的な総評としては、予想どおりの「期待外れ」であった。

・問題点としては、当会からの提出したものを読む限り、意見の文章については提出者本人の了解なく、勝手に多くの箇所が削除・修正されていた。また、市側からの回答は、どの意見に対しても「…今後の参考としたい」の文言に終始していた。

・参考までに他の官公庁のパブリックコメント、国土交通省と富山市の事例を比較、検証したが、両者は原文を削除することなく、回答もそれぞれの意見に対し個別説明を行っている。賛成意見、反対意見問わず建設な対応となっている。

この回答では「やっつけ仕事感」は否めなく、市の消極的かつ無気力な姿勢が垣間見られた。

・本来骨子案で、足りないもの、抜けているもの、ずれているものを、指摘したり補ったりするために市民からのパブコメ制度があるが、市側の考えに反する意見を黙殺するのでは「戦略」には程遠いレベルのものとなろう。

・ただ、市側と対立ばかりすることは賢明ではなく、一定の信頼関係を保ちつつも意見を言う時ははっきりと主張するのが当会のスタンスである。今後、交通戦略のとりまとめや交通実験の検証など、機会ある時には市の担当者と意見交換の場を持ちたい。

・今回の新しい戦略に限ったことでないが、市は、クルマからマイカーへの転換について、「市民の意識改革」とか「市民の合意形成」が重要と唱えている。お題目を唱えたり規制を検討したりするだけでは効果がなく市民からの反発もある。現在の市側の関係者では問題は的確化する人間がいない。具体的な施策や仕掛けが必要である。

・例えば、プライベートトリップは外し、まず通勤客に的を絞って、6～7割を公共交通に転換すると効果が出る。

方法論の一つとしてモビリティーマネジメント（通称：MM）という手法がある。市民フォーラム後に当会でも取り組んでみてはどうか。

議題 2 について

- ・候補日としては、新幹線開業し 1 年後となる 28 年 3 月 12 日 (土) 午後とする。

ちなみに翌週の日曜日20日には鶴来で終着駅サミットがある。

- ・場所は近江町プラザの4階会議室を第一候補とする。
- ・地元大学の若手学識経験者や、市民グループを招く。

議題3について

- ・金沢市市民協働推進課に対する登録団体更新の手続きを行った。学生のまち市民交流館を無料で使用できるが予約は2カ月前からとなる。学生団体は3カ月前からでき、一般団体は不利な条件となっている。
- ・金沢のLRTを考える会から、非公式なものであるが、将来当会と合体し、モビリティーマネジメント（通称：MM）など市民グループらしい活動に取り組んでみてはどうかという意見がでていたとのこと。
- ・現段階では正式な打診ではないが、これについて当会会員からは、概ね合併に肯定的な意見が出た。なお、当会独自の活動を続けるため、新組織には部会や分科会方式を取り入れる方が望ましいとの意見があった。
市民フォーラム終了後に、将来的な検討課題とする。

以上

次月予定 … 27年10月1日（木）、19:00～ 「あいむ」にて